

学術団体名：一般社団法人 日本生薬学会  
学術刊行物の名称：Journal of Natural Medicines  
事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本生薬学会が発行するJournal of Natural Medicines（JONM）誌は、これまで国内及び諸外国における天然薬物研究の成果を集約・発信し、これにより、我が国にとどまらずグローバルにも本領域の研究水準の発展と学術交流に貢献している。本事業では、以下の①～⑤の取組を行うことにより、本領域における情報発信媒体としての一層の高水準化を加速し、天然薬物領域に関して、アジア圏におけるトップジャーナルとしての国際的地位を確かなものとするとともに、世界的にも主要なジャーナルとしての確立を目指す：①より質の高い論文の掲載。②Review（総説）の掲載数の増加。③論文審査の国際的公平性・透明性の向上と編集体制及び審査体制の強化。④海外での広報活動の強化。⑤オープンアクセス化の支援と制限付きオープンアクセス化の整備。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

上記の取組に対して、次の目標を設定した：①本誌掲載論文のダウンロード数、被引用件数を増やし、3年後にインパクトファクター（IF）が2.4程度、事業終了時には2.8以上となるように務める。②Review（総説）を倍増させる。③外国人編集委員数を応募時9名から3年後14名に増員し、外国人編集委員を編集委員会へ招へいする。④海外の学会・シンポジウムでの広報活動を年2回以上実施する。⑤オープンアクセス論文の倍増を目指し、Open Choice経費を応募時の155万円（5件相当）から245万円（8件相当）に増額する。さらに、制限付きオープンアクセス「SharedIt」の利用環境を整える。

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

- ① 本誌掲載論文のダウンロード数は、応募時（2017年）103,567件であったが、その後2018年108,767件、2019年132,772件と順調に増加している。被引用件数の指標となるIFについては、2017年1.920、2018年1.966、2019年2.055と着実に上昇している（右図）。
- ② 国内外最先端研究者による総説については必ずしも増加していない。総説の投稿数は増えているので、審査を厳しくしているためと考えられる。引き続き、優れた総説の掲載に向けて努力する。
- ③ 外国人編集委員が2017年9名から2020年12名に増加した。2019年9月の編集委員会に米国から編集委員1名が参加した。外国人レフェリー数の総レフェリー数に占める割合が、2018年20%、2019年25%、2020年（9月時点まで）32%と顕著に増加している。投稿から第一審査判定（First Decision）に要する時間が2017年13日から2020年（9月時点まで）7日に大きく短縮した。
- ④ 国内外の複数の国際学会・シンポジウム（バンコクでのThe 1st Pharmaceutical Sciences Asia Conference 2019やソウルでのThe 50th Annual Meeting and Conference of the Korean Society of Pharmacognosyなど）において、ポスターを配布するなど広報活動を実施した。
- ⑤ オープンアクセス論文数は2017年6報から、2018年8報、2019年9報と増加した。SharedItの利用環境を整え、2019年の優秀論文12報について、本学会の和文誌である「生薬学雑誌」のインフォメーションに目次とともにSharedItによるリンクを記載し、ウェブ上で閲覧可とした。

### ・今後の計画

これまで実施してきた取組を継続し、本誌の国際情報発信力を強化することにより、掲載論文の被引用件数およびIFのさらなる向上を目指す。国際シンポジウム等での広報活動を積極的に実施し、国内外の最先端研究者による優秀論文や学会賞受賞者を中心とした優れた総説を積極的に掲載することに努めるとともに、それら優秀論文に対するオープンアクセス化の支援を行う。投稿論文数は増加しているが、論文採択率は減少傾向にあり、その結果、掲載論文数は増加していない。優れた論文の投稿数および掲載数を増加させるべく、厳正かつ迅速な審査に努める。

